

第2章

武蔵野市の
地域福祉の現状と課題

1. 地域懇談会から見えてくる課題、社会資源、気づき

より多くの住民の皆さんに、地域福祉活動計画づくりに関心をもっていただくために、住民自らが直接参画し自由に討議できる懇談会形式の機会を用意し、広く意見をお聞きすることにしました。

この懇談会は、武蔵野市の各地域の現状や課題を発見し、その課題解決に必要な社会資源^{*}の発掘を期待し実施しました。

(1) 実施方法

地域懇談会を実施するにあたり、以下のとおりすすめました。

- ◇形式 地域社協単位の地区別に懇談会形式での会合を設定しました。
- ◇頻度 1地域あたり、都合3回としました。
- ◇要旨 各回の開催要旨は以下のとおりとし、懇談会の回を重ねるにつれて、議論を深められるようにしました。
 - (第1回) 地域の生活課題の発見と共有化
 - (第2回) 発見された課題に対する地域資源の発掘
 - (第3回) 地域福祉活動計画に期待することの整理～スローガン創案～
- ◇開催地 近接した地域同士で集える機会を設定しました。これは近接しているからこそその類似性や、近接しているにも関わらず見えてくるであろう独自性を発掘できることを期待したためです。

なお吉西地区については、今回の懇談会に先立って、過日開催した実績があるため、第1回懇談会を省略し、第2回からの参画となりました。

また、千川地区と関前地区については、参加者からの希望を踏まえ、合同開催はせず、単独開催となりました。ここに記載のない大野田地区と四小地区については、別途、「武蔵野市健康福祉総合計画2012」策定時に実施しております。

※社会資源

ここでは地域の諸課題を解決するために活用できる地域資源をさします。
いわゆる「ヒト・モノ・カネ・トキ・シラセ」といわれる地域にある諸資源です。(P.14参照)



- ◇構成 原則として全回を通じて同じ参加者が集えるように配慮しました。なお、中途より新規参加された方に対しては、その時点のグループ人数などを勘案し、配席しました。
- ◇募集 参加者の募集方法は、地域社協（福祉の会）を通じての呼びかけを中心に行い、民生児童委員協議会や赤十字奉仕団、コミュニティ協議会など各団体への呼びかけや、市民社協広報紙・ホームページへの掲載、テンミリオンハウスでのポスター掲示、コミュニティセンター（以下、「コミセン」という。）および市内小中学校での募集チラシの配布を行いました。
- また、東部・南町地区では、地域性を考慮し、集合住宅へのポスター掲示も行いました。
- ◇第1回懇談会では熊田委員長（一部、千種副委員長ならびに本多（勇）委員）が冒頭で基調講義を実施しました。また各懇談会開催時には、策定委員もオブザーバーとして同席しました。なお、開催にあたっては、合同会社泉恵造研修企画工房に企画立案・実施に関して協力を依頼しました。

（2）実施内容

地域懇談会は、平成23年11月から平成24年2月にかけて開催されました。

【第1回】地域の生活課題の発見と共有化

日 時	基調講義	地 区	場 所	参加者数
11月7日（月）14:00～16:00	熊田	西久保・中央	芸能劇場	16名
11月11日（金）09:30～11:30	熊田	南町・東部	商工会館	22名
11月17日（木）14:00～16:00	本多（勇）	千川	市役所	9名
11月18日（金）14:00～16:00	千種	関前	関前コミセン	9名
12月5日（月）14:00～16:00	熊田	御殿山	商工会館	13名
12月9日（金）14:00～16:00	熊田	境・境南・桜野	スイング	36名

《主な内容》

基調講義／地域課題の発見と共通項の整理／明らかになった生活課題のイメージ化

【第2回】発見された課題に対する地域資源の発掘

日 時	地 区	場 所	参加者数
12月2日（金）14:00～16:00	関前	関前コミセン	13名
12月13日（火）19:00～21:00	南町・東部	公会堂	19名
12月15日（木）14:00～16:00	千川	千川小学校	11名
12月22日（木）10:30～12:30	西久保・中央	芸能劇場	26名
1月11日（水）14:00～16:00	境・境南・桜野	スイング	26名
1月12日（木）14:00～16:00	吉西・御殿山	商工会館	25名

《主な内容》

地域資源の発見／具体的な取り組みのアイデアづくり

【第3回】地域福祉活動計画に期待することの整理～スローガン創案～

日 時	地 区	場 所	参加者数
1月16日（月）10：00～12：00	千川	千川小学校	12名
1月16日（月）14：00～16：00	関前	関前コミセン	11名
1月20日（金）19：00～21：00	南町・東部	公会堂	15名
1月26日（木）14：00～16：00	西久保・中央	芸能劇場	27名
2月10日（金）14：00～16：00	境・境南・桜野	スイング	36名
2月16日（木）14：00～16：00	吉西・御殿山	商工会館	22名

《主な内容》

将来に向けての夢や願いの整理／スローガン作成

(3) 明らかになった課題および社会資源

各地区で行った全3回の地域懇談会で明らかになった課題のうち、全市で共通して多く出された課題と、課題に対する社会資源は以下のとおりでした。

①近隣とのつながりに関すること

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域における近隣との交流不足、コミュニケーション不足 ・近隣の人との挨拶ができる関係の構築 ・世代を超えたコミュニケーションができる関係づくりが必要 	<p>《ヒト》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員 ・ホームヘルパー ・ボランティアや活動団体 ・地域の物知り、顔の広い人 ・気軽に相談できる人 ・デリバリー事業者 <p>《モノ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政 ・地域社協 ・福祉施設 ・シルバー人材センター ・コミセン ・民間企業の会議室など ・都営住宅の集会所 ・公園 ・学校 ・病院 ・銭湯 ・保健所 ・商店街 ・寺社、教会 <p>《トキ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・垣根越しの立ち話の良さ ・イベント ・ラジオ体操 ・募金で顔を合わせる機会 ・住民同士の清掃時 ・回覧板配布時



全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の話題づくり 《シラセ》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 口コミ

②高齢者に関すること

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らし高齢者、認知症高齢者の増加に関する不安 ・ 高齢者を地域でどのように見守っていくのか？ ・ 日常生活が困難な高齢者への対応について 	《ヒト》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員・児童委員 ・ ケアマネジャー ・ ホームヘルパー ・ 地域社協 ・ 赤十字奉仕団 ・ ボランティア (大学生、高校生、中学生、小学生) ・ 向こう三軒両隣 ・ デリバリー事業者 《モノ》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉施設 ・ デパートなどの部屋 ・ 空き店舗、空き家 ・ 寺社、教会 ・ 商店街 ・ 小学校 《トキ》 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンまつり ・ 食事会 ・ コミセンだより ・ ブルーベリーの収穫 (世代間交流行事) 《シラセ》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉の会の会員証を提示するといった安心感

③子育てに関すること

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが近所の公園で遊ぶ姿が見えなくなった ・ 子どもの居場所の必要性 ・ 子どものマナーの問題 ・ 働く親の増加 	《モノ》 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセン ・ 寺社、教会 ・ 商店街 ・ PTA

④自転車に関すること（マナー）

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐輪場不足、放置自転車の問題 ・ 無灯の自転車やマナーの問題 	《ヒト》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の一層の関わり 《モノ》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 休日の銀行などの敷地提供

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備（道路の色分けなど） 《トキ》 <ul style="list-style-type: none"> ・学習会、講習会、勉強会 ・駐輪場スタッフの声かけ 《シラセ》 <ul style="list-style-type: none"> ・法的整備（予告の上の撤去など）

⑤災害に関すること

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の整備 ・災害時要援護者対策事業（災害弱者への対応）について 	《ヒト》 <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員との協働 《モノ》 <ul style="list-style-type: none"> ・一時的、段階的な避難場所 ・防災食 ・防災無線 ・防災倉庫 ・FM放送 ・行政機関 ・公共施設 《トキ》 <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・あいさつ運動 《シラセ》 <ul style="list-style-type: none"> ・手紙などを使う気持ちの伝達

⑥地域活動に関すること

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動をしている人の高齢化 ・担い手不足（男性、若い人の参加を希望）について ・コミュニティ協議会と地域社協の連携 ・地域社協の拠点、認知度の問題 	《トキ》 <ul style="list-style-type: none"> ・住民自身の意識向上 ・イベントなどによるきっかけ ・縁日 ・チラシ配布

⑦居場所に関すること

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に集まることのできる場所が必要 ・いつでも誰もが集える場所が必要 ・より身近な歩いて行ける距離に居場所が必要 	《ヒト》 <ul style="list-style-type: none"> ・向こう三軒両隣 《モノ》 <ul style="list-style-type: none"> ・テンミリオンハウス ・喫茶店やギャラリー ・デパートなどの一角 ・図書館 ・コミセン ・空き家、空き地 ・老人クラブ ・寺社、教会 ・商店街



全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
	《トキ》 ・ゴミ出し時 ・フリーマーケットやバザー ・祭り

⑧マンションに関すること

全市で共通して出された課題	解決に向けた社会資源
・マンションに住んでいる人との交流がない ・マンション住民とそれ以外の人と接点をもてない	《モノ》 ・コミセン ・公園、市民農園

なお、第3回地域懇談会の際には、地区ごとにスローガンを考えていただきました。地域福祉を推進していくにあたっての参加者の気持ちや願いが込められています。

- 【南 町】 ○福祉コンシェルジュのいるまち・南町
- 【西久保】 ○元気で笑って暮らせるまち西久保
○ささえあう ゆるやかな つながりが うまれる 西久保
- 【境 南】 ○「地域資源」がゆるやかにつながっている町
○このまちが好き みんなが好き ささえあえるまちに
- 【千 川】 ○知りあおう！ ささえあおう！ 大きな家族千川
○ひと声でつなぐ 地域づくり
- 【東 部】 ○老いも 若きも お一人様も 安心して暮らせる あたたかいまちづくり
- 【関 前】 ○福祉活動 空気のような常日頃
○暮らしの声とアイデアが形になる関前
- 【桜 野】 ○ゆるやかに強力に地域活動を
○世代を越えて 安心して住み続けられる地域
- 【 境 】 ○福祉のつながり地域から！
○境のまちを明るく楽しく
- 【御殿山】 ○皆んな元気でたすけあえる町内会
○つながろう まずはあいさつ とよりから
- 【吉 西】 ○商店・住民間の難問に勝つ 笑顔と人のつながり
○自助・近助・共助・公助 近助が大事
- 【中 央】 ○夢を明日の大空に！！
○住み続けたい街・中町

(4) 地域懇談会を通じた気づき

今回の地域懇談会からは実に様々な課題が明らかになってきましたが、それとあわせて多種多様な社会資源があることもわかってきました。

これらを踏まえ、これからの武蔵野の地域福祉をより向上・推進させていくにあたり、気づいた点を整理しておきます。

《どのような変化が望まれているのか?》

今回の懇談会では、住民自身の様々な希望や期待といったものが出されました。将来に向けて、地域の環境がよりよく変化・改善されていくことが望まれるのだろうと考えます。そのような中で、住民はどのような未来の姿を描いているか、その姿を実現させるためには、どのように互いのつながりを深めていけばよいのかを考えていく必要があります。

《新しいまちをつくっていくために必要なものは何か?》

今回の懇談会では、まちそのものが老朽化していくことをどのようにして食い止め、新しい姿に変えていくかといった視点も大切であることが見えてきました。

それぞれの懇談会で考えられたスローガンからも、その地域らしさや誇り、願いといったようなものが垣間見えました。そのような住民自らの前向きな姿勢をどのように支援し、より一層醸成させていくかが、地域福祉活動計画に欠かせない要素であろうと考えます。

《武蔵野らしさとは何か?》

今回の懇談会では、さまざまな社会資源が見つかりました。これからは、実際にこれらの資源をどのように発掘していくのか、有機的につなげていけばよいかが課題となってきます。そこには、武蔵野というまちにしかない強みや独自性、可能性があるはずですが、そのためにも、一人でも多くのひとが関わり、武蔵野らしい姿を創造していくことが大切であると考えます。

《市民社協はどのような情報発信基地となるべきか?》

今回の懇談会では、随所に地域社協（福祉の会）の名前が挙がっています。そういう意味からも地域社協（福祉の会）が、地域福祉の要的な存在として、より一層活発な活動を展開していくことが求められます。そして、それは同様に市民社協に対しても向けられている期待であり課題であるといえます。

社会福祉協議会という組織が、これからの武蔵野にとって、どのような存在であるべきか、どのような情報を発信していく立場となるべきかを、さらに、明確にしていく必要があると考えます。



ちいきの資源を探そう

下の図は、“ちいきの資源” の一例です (順不同)

ヒト (人的資源)	モノ (物的・組織的資源)	トキ (機会的資源)		
<ul style="list-style-type: none"> ○本人 ○地域住民 ○在勤者 ○学生 (小・中・高・大) ○商店主 ○医師 ○看護師 ○保健師 ○介護支援専門員 ○社会福祉士・介護福祉士 ○精神保健福祉士 ○ケアワーカー ○ホームヘルパー ○保育士 ○社協職員 ○民生委員・児童委員 ○主任児童委員 ○福祉委員 ○保護司 ○ボランティア ○弁護士 ○司法書士 ○税理士 ○行政職員 (警察・消防含む) ○郵便配達員 ○新聞配達員 ○デリバリー事業者 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会・町内会 ○自主防災会 ○婦人会 ○老人クラブ ○赤十字奉仕団 ○交通安全協会 ○シルバー人材センター ○こども会 ○保育園 ○PTA ○子育てサークル ○ボランティアセンター ○商工会議所 ○青年会議所 ○学校 ○社協 ○商店街 ○病院・診療所 ○社会福祉施設 ○コンビニエンスストア ○デパート・スーパー ○地域の空き家 ○テンミリオンハウス ○コミュニティセンター ○図書館 ○映画館 ○娯楽施設 ○カフェ ○基会所 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○チャンス ○タイミング ○就業時間 ○休暇時間 ○ボランティア活動時間 ○ひらめきの瞬間 ○地域との交流 ○友だちとのつきあい ○PTAなど団体活動 ○式典やイベント <p style="text-align: right;">など</p>		
		<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="1002 922 1315 965">シラセ (情報的資源)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1002 974 1315 1680"> <ul style="list-style-type: none"> ○サービス利用者情報 ○相談窓口のニーズ情報 ○統計情報 ○インターネット情報 ○新聞 ○雑誌 ○テレビ ○ラジオ (むさしのFM78.2) ○町内会報 ○福祉の会だより ○コミュニティセンター広報 ○折り込み広告 ○街で配られるチラシ ○タウンページ ○先人・先輩の知恵 ○ノウハウ ○市民社協だより ふれあい ○市報むさしの <p style="text-align: right;">など</p> </td> </tr> </tbody> </table>	シラセ (情報的資源)	<ul style="list-style-type: none"> ○サービス利用者情報 ○相談窓口のニーズ情報 ○統計情報 ○インターネット情報 ○新聞 ○雑誌 ○テレビ ○ラジオ (むさしのFM78.2) ○町内会報 ○福祉の会だより ○コミュニティセンター広報 ○折り込み広告 ○街で配られるチラシ ○タウンページ ○先人・先輩の知恵 ○ノウハウ ○市民社協だより ふれあい ○市報むさしの <p style="text-align: right;">など</p>
シラセ (情報的資源)				
<ul style="list-style-type: none"> ○サービス利用者情報 ○相談窓口のニーズ情報 ○統計情報 ○インターネット情報 ○新聞 ○雑誌 ○テレビ ○ラジオ (むさしのFM78.2) ○町内会報 ○福祉の会だより ○コミュニティセンター広報 ○折り込み広告 ○街で配られるチラシ ○タウンページ ○先人・先輩の知恵 ○ノウハウ ○市民社協だより ふれあい ○市報むさしの <p style="text-align: right;">など</p>				
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="635 1603 948 1646">カネ (財政的資源)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="635 1655 948 1995"> <ul style="list-style-type: none"> ○補助金 ○委託金 ○寄付金 ○収益金 ○助成金 ○介護保険料 ○銀行からの融資 ○協賛金 ○自主事業による収益 <p style="text-align: right;">など</p> </td> </tr> </tbody> </table>	カネ (財政的資源)	<ul style="list-style-type: none"> ○補助金 ○委託金 ○寄付金 ○収益金 ○助成金 ○介護保険料 ○銀行からの融資 ○協賛金 ○自主事業による収益 <p style="text-align: right;">など</p>	
カネ (財政的資源)				
<ul style="list-style-type: none"> ○補助金 ○委託金 ○寄付金 ○収益金 ○助成金 ○介護保険料 ○銀行からの融資 ○協賛金 ○自主事業による収益 <p style="text-align: right;">など</p>				

2. 地域に関するニーズ調査の結果

住民の地域福祉に対する意識を確かめる方法として、アンケート調査を実施しました。

(1) 会員アンケート

会費による支援をはじめ、一般市民と比較しても市民社協活動に強い関心をもつと考えられる市民社協会員、ボランティアセンター武蔵野（以下、「VCM」という。）活動会員を対象に実施しました。

(2) 若年層アンケート

上記会員アンケートや地域懇談会の場合では意見をお聞きすることが難しい“若年層”に対して実施しました。

(1) 会員アンケート結果概要

①実施方法

- ◇対 象 平成23年11月時点での市民社協会員 3,008名
 〈内訳〉 個人会員 2,665名
 特別賛助会員 80名
 VCM活動会員 263名^{*}
- ◇形 式 会員に対して、アンケート用紙を郵送し、郵送をもって回収しました。
- ◇期 間 (1次メ切) 平成23年12月19日(月)
 (2次メ切) 平成24年1月25日(水)
- ◇内 容 ・近所づきあいについて
 ・居場所について
 ・防災・災害について
 ・地域社協について
 ・市民社協、ボランティアセンターについて
- ◇回 収 (有効回答数) 1,349名(有効回収率 44.8%)
 (回答数内訳) 個人会員 1,233名
 特別賛助会員 21名
 VCM活動会員 95名
 (回答者特性) 65歳以上の回答者が 76.4%
 女性が 73.3%
- ◇集 計 集計にあたっては、合同会社泉恵造研修企画工房に協力を依頼しました。

^{*}個人会員、特別賛助会員との重複者を除く



②実施結果

選択肢が4肢以上ある質問については、回答は上位3位以内のものを表示しました。

問1 あなたは「地域」と聞いたとき、どの程度の範囲をイメージしますか

No.	選択肢	件数	%
1	隣・近所	234	18.2
2	丁目	308	24.0
3	小学校区	315	24.5

問2 あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをなさっていますか

(会ったら挨拶程度はする近所の人)

No.	選択肢	件数	%
1	いる	1216	98.9
2	いない	13	1.1

(会ったら立ち話する程度の近所の人)

No.	選択肢	件数	%
1	いる	1144	93.5
2	いない	79	6.5

(ちょっとした頼みごとができる近所の人)

No.	選択肢	件数	%
1	いる	868	73.5
2	いない	313	26.5

(悩みごとなどを相談できる近所の人)

No.	選択肢	件数	%
1	いる	551	48.9
2	いない	575	51.1

(いざというとき(災害時)にたすけあえる近所の人)

No.	選択肢	件数	%
1	いる	879	76.0
2	いない	277	24.0

問3 ご近所の方とのおつきあいについて、次のような意見があるとします。あなたの考えはどれにもっとも近いですか

No.	選択肢	件数	%
1	日頃からお互いにたすけあう関係がよいと思う	431	33.8
2	いざというときにたすけあえる関係がよいと思う	462	36.2
3	節度をもって行うのがよいと思う	416	32.6

問3-1 あなたはご近所の方と、どのようなおつきあいができるかと最もよいと思いますか

No.	選択肢	件数	%
2	会ったら立ち話をする	260	20.3
3	ちょっとした頼みごとができる	263	20.6
5	いざというとき（災害時）にたすけあえる	627	49.0

問4 あなたの自宅の近くには、地域の方々が気軽に集うことのできる場所（居場所）がありますか

No.	選択肢	件数	%
1	ある	671	54.1
2	ない	570	45.9

問5 あなたは、自宅の近くに地域の方々が気軽に集うことのできる場所（居場所）があれば、利用したいと思いますか

No.	選択肢	件数	%
1	ぜひ利用したい	302	23.8
2	内容によっては利用したい	815	64.2
3	特に利用したいとは思わない	155	12.2

問5-1 自宅の近くに地域の方々が気軽に集うことのできる場所（居場所）では、どんなことをしたいですか

No.	選択肢	件数	%
3	同世代の方との交流	484	43.1
4	異なる世代の方との交流	498	44.3
6	趣味活動	661	58.9

問5-2 あなたは、地域の方々が気軽に集うことのできる場所（居場所）がどのようなところにあるといいと思いますか

No.	選択肢	件数	%
2	コミュニティセンター	770	75.3
3	喫茶店などの店舗	322	31.5
5	施設などの空き部屋	512	50.1



問6 あなたは、地域の方々と気軽に集う事のできる場所（居場所）として、自宅（空き部屋）などを提供してもよいと考えますか

No.	選択肢	件数	%
4	年に数回程度なら、提供してもよい※	61	5.0
5	提供する気はない	282	23.3
6	提供できる部屋はない	776	64.2

問7 平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、あらためて「地域の防災」が注目されました。災害に備える地域の取り組みと、あなたが普段から取り組んでいることは、次のうちどれですか

No.	選択肢	件数	%
1	ひとり暮らしの高齢者や障がい者などを、住民どうしでたすけあえる関係づくり	463	37.6
2	防災に関する組織（自主防災組織）づくり	284	23.1
4	特になし	575	46.7

問8 今後、災害に備える地域の取り組みとして、あなたが協力できるとお考えになることは、次のうちどれですか

No.	選択肢	件数	%
1	ひとり暮らしの高齢者や障がい者などを、住民どうしでたすけあえるか関係を作っておく	691	56.0
2	普段から地域で防災に関する組織（自主防災組織）を築いておく	517	41.9
3	学校などの避難所の使い方を、あらかじめ住民どうしで決めておく（避難所運営組織）	583	47.2

問9 武蔵野市では、地域の福祉活動を進めることを目的に、市内全域で13の地域福祉活動推進協議会（地域社協・福祉の会）が活動しています。あなたは、地域社協・福祉の会をご存じですか。また地域社協・福祉の会への参加や関心はいかがですか。

No.	選択肢	件数	%
1	知っているし、活動に参加している（参加したことがある）	720	55.6
2	知っているが、活動に参加したことはない（今後、参加してみたいと思う）	278	21.5
3	知っているが、活動に参加したことはない（今後も参加するつもりはない）	173	13.4

※「毎日」～「年に数回程度」提供してもよい、との回答は全体の12.7%。うち、氏名などの記載のあった件数は91件。

問10 今後、地域社協が力を入れた方がよいとお考えになる活動はどのようなものですか

No.	選択肢	件数	%
1	日常生活で困ったことが起きたときに、近所の人どうしでたすけあうための活動	615	47.9
2	災害が起きたときなどに、近所の人どうしでたすけあうための活動	889	69.2
3	地域の高齢者やその家族を支援する活動	553	43.1

問11 今後、武蔵野市民社協が力を入れた方がよいとお考えになる活動はどのようなものですか

No.	選択肢	件数	%
1	福祉活動のネットワークづくりの推進	490	39.1
3	生活の困りごとを何でも相談できる場所（人）	485	38.7
5	行政ではできないが、地域福祉に必要な活動	566	45.2

問12 今後、ボランティアセンター武蔵野が、力を入れた方がよいとお考えになる活動はどのようなものですか

No.	選択肢	件数	%
3	広く一般市民を対象としたボランティア活動に関する啓発活動	680	55.1
4	若い世代を対象としたボランティア活動に関する啓発活動	467	37.8
9	災害時のボランティア活動に関する組織体制づくり	574	46.5

問13 武蔵野市民社協（ボランティアセンター武蔵野）の事務所について伺います。
あなたは武蔵野市民社協（ボランティアセンター武蔵野）の事務所にどのようなものがあればよいとお考えですか

No.	選択肢	件数	%
1	市民が自由に交流できるスペースがある	738	63.6
2	ボランティア・市民活動団体が印刷機・紙折り機などを利用できる	408	35.1
3	ボランティア・市民活動団体が会議室を使用できる	574	49.4

問14 あなたは武蔵野市民社協（ボランティアセンター武蔵野）の事務所がどのような場所にあるとよいとお考えですか

No.	選択肢	件数	%
1	公共施設の中にある	654	52.2
2	市役所の近くにある	373	29.7
3	交通の利便性のよい場所にある	1040	82.9



問15 その他、地域活動や市民社協などに関することをご意見があればご記入ください。^{*}

地域社協に関する要望・意見	46件
市民社協に関する要望・意見	105件
ボランティアセンター武蔵野に関する要望・意見	60件
武蔵野市全体に関する要望・意見・感想	10件
地域活動に関する要望	50件
自分自身に関すること	76件

③結果から見えてくるもの

今回の会員アンケート結果を踏まえ、これからの武蔵野の地域福祉をより向上・推進させていくにあたり、気づいた点を整理します。

《地域住民同士の距離感をどう考えるか》

今回のアンケートでは、問2で“いざというとき（災害時）にたすけあえる近所の人がいる”と答えた方が76%あり、問3-1の最もよいとされるおつきあいとして、“いざというとき（災害時）にたすけあえる近所の人がいる”と答えた方が大半であったため、いざというとき（災害時）にたすけあえるつながりが、強く求められていることが分かりました。このことを踏まえて、互いの顔が見える距離感や、つながりやすい地域とはどのようなものなのかについて考えていく必要があります。それとともに、お互いの距離感を縮めていくためにも居場所のあり方を考える必要があります。[問2～6参照]

《地域福祉に関心を寄せていただく術をどう考えるか》

今回のアンケートは、市民社協の会員が対象であったため、地域福祉活動を進めることの必要性や、地域社協の活動に対する周知度は高いといえます。しかし、“活動に参加したことはない”という回答が35%弱あり、そのうち“参加するつもりはない”という回答が13%を占めています。武蔵野というまちを住民自らがささえていくべきであると考え、今後どのように地域社協活動に参画していただくか、突き詰めれば、地域福祉の推進をどう担っていただけるかを考えていく必要があります。[問9参照]

《武蔵野にとって、普遍的な地域の広さをどう考えるか》

今回のアンケートでは、住民が感じる“地域の広さ”が見えてきました。

これは見方を変えると、住民に最も“しっくりくる地域の広さ”とも考えられます。住民同士がつながりやすい広さが見えてくると、そこで実施されるべき事業・サービスのメニューもおのずと想定しやすくなります。武蔵野にとって、地

※自由記述のあった件数を項目別に記載。

域福祉を推進しやすい広さを、住民全体でどう普遍化していくかが大切であるといえます。[問1参照]

(2) 若年層アンケート結果概要

地域懇談会及び市民社協会員アンケートでは参加者（回答者）の年代に偏りが見られたため、若年層アンケートを平成24年2月～3月にかけて実施しました。

①実施方法

◇対象・形式・内容

アンケートは若年層を中心とした地域懇談会に参加していない市民からの意見を集めるため、「コミセン親子ひろば」での実施や策定委員による各地域での配布を中心に実施しました。

◇回答者特性

13町すべての回答が集まりましたが、吉祥寺（南町・東町・北町・本町）及び御殿山で58%を占め、市の東部での意見が多く寄せられました。年齢は40代以下の回答が74%を占めています。家族構成については夫婦と子どもが63%と最も多く、単身者の割合も三世同居を上回っています。

②実施結果

普段の生活や地域で問題と感じていることについて自由記述により回答してもらった結果、各町に共通する項目として以下の6項目が挙げられました。

〈隣近所とのつきあいがない〉

- ・集合住宅（マンション、アパートなど）での近所づきあいが少ない（難しい）
- ・災害時に地域でたすけあいができるか不安
- ・核家族が増えて他世代との交流がない
- ・子どもが成長すると地域のつきあいが減少する
- ・町会や自治会がない
- ・働いているため近隣とのつきあいができない
- ・孤立死が身のまわりで起こっても不思議ではない
- ・学生なので地域との関わり方が分からない

〈自転車のマナーが悪い〉

- ・自転車の歩道走行が危ない（スピードが出ている）
- ・朝の登校時は子どもが危険
- ・信号など交通ルールを守らない



- ・路上駐輪が多い
- ・自転車専用レーンの設置が必要
- ・子どもと一緒に歩いている時も注意していないと危険

〈子どもを安心して遊ばせられる場所がない〉

- ・0123のような子育て支援施設が増えるとよい（遠い）
- ・子どもがのびのびと遊べる広い公園が少ない
- ・児童館が少なく、室内施設がない
- ・コミセンは子ども向けに常に開放されていない
- ・親子ひろばが月1回ではなく毎週あるとよい
- ・広い公園がなく内遊び（ゲーム）が多い
- ・ボールが使用できる公園が少なく、公園の遊具が少ない
- ・校庭開放は就学児だけでなく幼児にも開放してほしい
- ・子どもが集まる公園があるとよい
- ・公園が暗く子どもを遊ばせにくい

〈保育園（施設）が少ない、入れない〉

- ・保育園の数が少なく入れない
- ・保育園に気軽に預けられるようにしたい
- ・子どもを預けるところがあって安心して働きたい
- ・子育て支援センターが遠い、待機児童が多い

〈駐輪場が少ない〉

- ・駐輪場が少なく駅周辺の駐輪場は満車で困ることがある
- ・平日でも午後は満車になることが多く子どもを乗せて駐輪場を探すのが大変
- ・週末は自転車置場が特に不足する

〈地域の居場所が少ない〉

- ・中学生や高校生の放課後や休日の居場所が必要
- ・武蔵野プレイスのような施設が東部地域にも必要
- ・コミセンを子どもに使いやすくしてほしい
- ・テンミリオンハウスは高齢者の居場所として適当だが設置数が少ない
- ・気軽に寄り合える場所があったら幅広い年代の方々と交流が生まれる
- ・気軽に集まれる高齢者サロンがあったらよい

③結果から見えてくるもの

《若年層特有の課題がある》

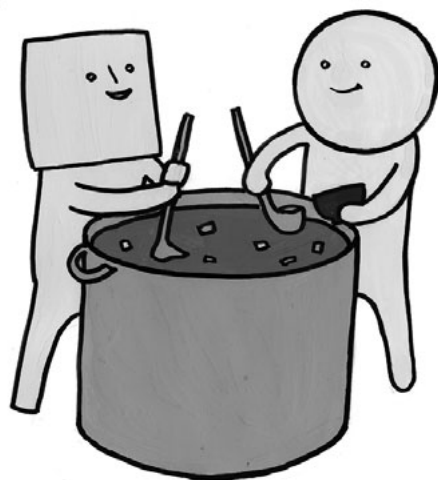
回答者の年代が若年層に集中していること、子育て中の親が多かったこともあ

り、普段の自身の生活状況を反映し、出された課題の多くが子育てに関連するものでした。

《年代に関わらず共通の課題もある》

一方で、「隣近所とのつきあいが少ない」や「地域の居場所が少ない」については他の年代と同様に多くの意見が出されており、年代を問わず地域の人間関係が希薄になっていることに何らかの問題意識を持ち、身近な地域でのつながりづくりが必要であると考えていることが伺えます。

これらの結果に関しては同アンケートの「武蔵野市がどのようなまちになるといいか」という設問に対する回答にも反映されていました。



3. 第3次武蔵野市地域福祉活動計画につながる課題

地域懇談会、会員アンケート、若年層アンケートを通じて、武蔵野市という地域全体のさまざまな課題が見えてきました。

そこで、地域福祉活動計画の策定にあたり、どのような「取り組み目標」を立てていけばよいのかを整理しました。

(1) 地域課題を解決するためには、まず人ありき

地域懇談会で出された、課題を解決するために必要な社会資源の中でも、“人的資源(ヒト)”の存在は、やはり欠かせないということがわかってきました。また対象も、多種多様な専門職はもとより、広く地域住民全体に及ぶこともわかってきました。

これらのことから、地域課題を解決し、ひいては地域福祉全体を向上させていくためには、まずは“人”ありきであると考えます。武蔵野市という自分たちが暮らすまちを、一人ひとりがどのようにささえていくことができるか、地域福祉の向上のために、一人ひとりがどうすれば関心を寄せていくことができるか、また一方では、そのために必要な情報をいかにして発信し、共有していけばよいのかを考えていくことが必要です。

(課題1) 地域をささえる人づくりをどのように進めていくか

- ・ どうすれば一人でも多くの人に地域の福祉に関心を持ってもらえるか
- ・ 地域に対して福祉に関する情報をどのように発信していけばよいか

(2) 人と人がつながる土台となる地域づくり

会員アンケート結果からは、地域住民が感じている地域の広さというのが見えてきました。そこには互いの顔が見える距離感、そして、そのことによって得られる安心感といったものの必要性も感じました。また地域懇談会で提案していただいたスローガンのなかにも、人と人がつながりやすい地域というものをつくっていきたいという願いや期待というものを見ることができました。そこには日常的につながっていくことが可能な場づくりの重要性もわかってきました。

これらのことから、お互い同士が最もしっくりとくる距離感で、どのようなつながりをつくっていくことができるかが、武蔵野市の地域福祉を向上させていく要素であると考えます。

(課題2) 人と人がつながりやすい地域をどのようにつくるか

- ・ 互いの顔が見える関係をどのようにつくるか
- ・ 人と人がつながりやすい場をどのようにつくるか

(3) 互いにたすけあえる地域をつくるための“しくみ”の必要性

地域懇談会で出された課題やアンケート結果から、住民同士のコミュニケーション力が次第に低下してきていることや、日常生活を営むうえで生じる様々な課題を、気軽に相談したり支援を求める場所が近くにないといった機能的な側面の課題も見えてきました。

これらのことから、内容を問わず広く地域全般の課題を受け入れ、解決につないでいけるようなしくみをつくること、そのためにも住民が地域のなかで孤立せず、有機的につながっていられるような環境をどのように整えていくかが大切です。

(課題3) “たすけあいのしくみ”をどのようにつくるか

- ・地域のなかで孤立しないようにするにはどうすればよいか
- ・様々な課題を対象にできるたすけあいのしくみをどのようにつくるか

(4) 市民社協のこれからの立ち位置の明確化

アンケート結果からも、市民社協に対する様々な意見や要望が寄せられました。地域住民が感じている、あるいは実際に抱えている様々な課題を解決していくうえで、市民社協の役割は今後ますます重要となってきます。

上記に挙げた諸課題に取り組むためには、これまで以上に地域住民のニーズを真正面からとらえ、取り組んでいく姿勢が求められます。

(課題4) 市民社協が市民のニーズにどのように応えていくか

- ・地域における様々な福祉に関わる活動をどのようにささえればよいか
- ・人と人、人と様々な団体、組織を、どのようにつなげていけばよいか
- ・そのためにも、市民が今後の市民社協をどのように育てていけばよいか

上記に整理したような、多岐にわたる課題に対して、次章ではより具体的な取り組み方を提案します。



4. 中期計画における重点課題の取り組み状況

平成21年度より4年間にわたる「中期計画」においては、市民社協の運営方針や事業別の今後の方向性などを示し、計画の副題を「～目指そう 住民のニーズに応えられる新たな社協を～」としました。

市民社協では、「住民同士のささえあいによる安心して暮せるまちづくりの実現」を目指し、地域における多様な課題に対し、地域社協の活動支援など住民同士がお互いにたすけあえる地域づくりを進めてきました。

中期計画でもこれまでの活動を踏まえ、「みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして」の基本理念のもと、7つの重点課題を定めました。(武蔵野市民社会福祉協議会 中期計画P11～13)

中期計画の期間中、取り組んできたことと今後の課題は以下のとおり整理されます。

【取り組んできた内容】

●役員体制の強化

理事会・評議員会において、市民社協の現状や抱える課題について、意見交換の場を設け、運営に反映させるような取り組みを行いました。

●福祉学習事業の推進

「ふれあい福祉学習検討委員会」を設置し、小中学校における福祉学習（高齢者理解）を実施してきました。平成24年度は小学校6校、中学校3校まで実施校が拡大しました。

●ボランティア活動の促進

VCMにおけるボランティア講座修了生によるグループ化など、活動者の拡大につながりました。

【今後の課題】

●効果的な情報提供方法

「市民社協だよりふれあい」を毎月発行していますが、市民社協の認知度は高いとは言えない状態です。

●地域福祉コーディネーターの設置と役割

地域福祉活動をより推進するために「地域福祉コーディネーター」の設置を検討していきます。

●地域福祉団体支援

地域社協をはじめとする地域福祉団体などでは、「担い手不足」が大きな課題となっています。その他、活動のための「ヒト・モノ・カネ・トキ・シラセ」の支援のあり方を検討します。

●自主財源の拡充

「地域福祉活動展」の実施や、「七夕のつどい」における地域活動のPR等、会員の拡充に向けた取り組みも行いましたが、さらなる検討が必要です。